

平成29年度事業報告書

テーマ：地域に開かれた法人として関わりを深め、安心のできる暮らしの支援

サブテーマ：住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、他職種への情報発信源となり、地域とのつなぎ役に努める

部署名：あじさい園ヘルパーステーション

<概要> 1. 安心した在宅生活が継続できるよう支援することができた。

2. 事業所としての信頼度を高めることができた。

3. 総合事業への参画。

<総括> 1. ケアプランに基づきサービスを行っていく中で、利用者、家族が何に困っているか、どう支援してほしいか、ケアマネと連携を密にし新たなニーズを報告・相談する事で寄り添うサービスを提供することができた。

日々、利用者の状態変化に小さな気づきを持ち、職員同士の密な情報共有を行い、訪問介護計画書の検討・見直し・実施を図ることで、自立支援に向けたサービスを提供することができた。年1回の家族への満足度アンケートを実施することで、見えない家族の思いや職員に対する評価を知り、支援内容の見直しや、職員一人ひとりの接遇の再確認ができ、サービスの質の向上に努めることができた。

37年ぶりの記録的な大雪により地域内の道路事情が悪いため、時間をかけ徒歩で独居宅を訪問し安否確認した。利用者の安心した表情を見る事ができるなど、できる限り在宅生活が継続できるよう支援することができた。

2. サービス提供責任者を中心に利用者の担当制を導入したことで、職員一人ひとりの責任感が生まれ、迅速な報・連・相、情報共有により、的確な支援に繋げることができ、チーム力の向上に努めることができた。

どの職員が担当しても、利用者一人ひとりのケアの質が低下しないよう、活発な情報交換が行えた。普段の職員同士のコミュニケーションを心掛けたことで、統一された質の良いケアの提供に繋げることができた。

利用者、家族の”いつもとは違う小さな気づき”をケアマネへの発信に努め、他サービス間とのチームケアに活かしたことで、安心した在宅生活の維持に努めることができた。

利用者、家族はもちろん、近隣の方々へ笑顔や言葉掛け、対応にも心掛け、信頼される事業所づくりに努めた。

3. 坂井市の総合事業(訪問型サービス)において、説明会や研修に参加することで、効果的なサービスを提供することができた。

月1回の業務改善会議において、従来からの業務に支障・混乱がでないよう業務の再確認や調整を行うことができた。